

自分で考える

2024. 7. 17

ニュース番組等には、スポーツコーナーというものがある。毎日報道されるが、そのトップにくるのは、プロ野球メジャーリーグの大谷翔平選手の活躍ではないだろうか。少なくとも、日本のプロ野球よりは先にくる。大谷選手が、それだけの活躍をしているのも事実である。

今年も大谷選手は目覚ましい活躍をしている。栗山英樹さんが、ある質問に答えている。それは、「大谷翔平選手は、なぜ世界の大谷翔平になったのか、これについてどう思われますか？」というものである。栗山さんは、こう答えている。

もちろんご先祖様からの遺伝子がうまく組み重なって、あれだけの体格と能力が生まれているのは事実ですけど、僕が思っているのは、「自分で考えて自分で答えを出してきた」ということです。

自分で考えてやったことしか、失敗したときにプラスにならないという話をよくするんです。要するに、人から言われたことを鵜呑みにしてやっていると、うまくいかなかったときに、本質的に自分のせいにならないので、進み方が遅いという感覚を彼はもっていると思います。

二刀流という、前例のない初めてのことに挑戦するにあたって、練習メニューを最後は全部自分で考えなきゃいけない。常に自分で考えて自分でやってきた習慣が、ああいう選手をつくり上げた。

ですから、子どものときから、できるだけ自分で考えて失敗する、自分で考えて成功するという経験をさせてあげる必要があるというのが、僕が彼から得た学びですね。

「自分で考える」実にシンプルなフレーズである。しかし、これがむずかしい。考えるためには、必要なものがあるし、いくつかの条件もあるように思う。栗山さんが言うことは、特別な存在である大谷選手にだけ当てはまることではないだろう。スポーツでなくても、レベルの違いがあつたとしても、私たちにも当てはめることができるように思う。

ポイントは、「子どものときから、できるだけ自分で考えて失敗する、自分で考えて成功するという経験をさせてあげる必要がある」という点である。これができやすいのが、小学校に入るまで、すなわち幼稚園ではないかと考えた。

小学校に入ると、教科書が登場し、集団生活の下、決められたカリキュラムに則って教育活動が進められていく。自分で考えることはできるが、果たして失敗するという経験をさせる余裕があるだろうか。現実には、なかなか厳しいように思う。そうであれば、小学校に入るまでに、できる限り自分で考え、失敗したり、成功したりする経験をさせてあげたい。そんな幼稚園でありたい。